

探究・校務改革 支援補助金 2025

令和6年度補正予算
地域未来人材育成支援民間サービス等利活用促進事業費補助金



探究的な学びの高度化/教職員の校務負担軽減を目指して

効果報告レポート

【事業者名】

ソルーナプランニング株式会社

【サービス名称】

自己探究型キャリア教育プログラム-REAL-

【サービスの支援項目】

カテゴリ-1 探究的な学びの高度化 メインサービス

2026年1月



1. サービスの概要、特徴

(1) 導入によるメリット、類似サービスとの違い等

本サービス「自己探究型キャリア教育プログラム－REAL－」は、職業理解や進路情報の提供にとどまらず、生徒一人ひとりの自己理解・自己省察を起点とした進路探究に焦点を当てたキャリア教育プログラムである。ワークショップ形式の自己探究と、大学生・社会人による講話を組み合わせることで、生徒は「知る」だけでなく、「自分ごととして考え、言語化し、他者と対話する」学びを経験する。

類似の進路講話型・職業紹介型プログラムと異なり、本サービスでは

- ・自己理解 → 探究 → 進路選択という思考プロセスを重視
- ・正解の提示ではなく、生徒自身の価値観・判断軸の形成を支援
- ・「ナナメの関係（大学生・社会人）」を活用した対話型学習

を特徴としており、探究的な学びの質的向上に寄与する点が大きな特長である。

(2) 学習に関連する効果又は業務効率化・利便性等に関連する効果

本サービスの導入により、生徒は自己理解を深めた上で進路を考える機会を得るため、志望校・将来像に対する目標が具体化・言語化される効果が確認された。特に「なぜその進路を選ぶのか」「自分は何を大切にしたいのか」といった内省的問いを通じて、進路選択を“受動的な決定”から“主体的な意思決定”へと転換することができる。

(3) サービスの活用場面

・総合的な学習（探究）の時間における進路・キャリア探究・SDGs・地域課題学習と連動した自己探究

(4) 1サービスあたりの標準販売価格（生徒1人当たり）税抜

①講話（大学生）：1,000円/人 ②講話（社会人）：1,500円/人 ③ワークショッププログラム：400円/人

※価格に含まれないもの：ワークシート等の配布物の印刷

2. サポート内容（サービスの利用に際しての自社のサポート体制等）

教員との事前打合せによる目的・ゴールのすり合わせ、学年・実態に応じたプログラム内容の調整

ワークシート・進行資料の提供、当日のファシリテーション・運営支援、実施後の振り返り・改善提案

■ 学校等教育機関の課題と解決策

成績・偏差値中心になりがちな進路選択や、調べ学習で止まる探究の課題に対し、本サービスは自己理解と対話を軸に、生徒が自分の価値観や関心をもとに主体的に考え、理由をもって言語化できる探究的な学びを実現する。これにより、進路や将来を自分ごととして捉える力の育成に寄与する。

児童生徒・教職員が抱える課題

<生徒の抱える課題>

生徒が進路を「成績・偏差値」中心で捉えがちである

・多くの生徒にとって進路選択は、内面的な関心や価値観よりも、「成績」「偏差値」「周囲の評価」といった外的指標を基準に考えられやすい傾向がある。その結果、進路を自分で考えるものではなく、与えられるものとして捉えてしまう生徒も少なくない。

結果として、

- ・進路理由が曖昧なまま選択が進む
- ・進学後・進級後にミスマッチや意欲低下が起きやすい
- ・探究学習が進路選択に結びつかず、形式的になりやすい

<教職員の抱える課題>

探究学習の重要性は認識されている一方で、問いの設計、ワークの進行、生徒の対話支援・振り返りといった部分を、教員がすべて担うことは負担が大きい。

問題点

- ・探究授業の質が教員の経験値に依存しやすい
- ・準備・運営に時間がかかり、継続が難しい
- ・本来注力すべき生徒理解に時間を割きにくい

サービスが果たす役割

<生徒の抱える課題に対する役割>

本サービスは、進路情報や正解を先に与えるのではなく、生徒自身の価値観・関心・経験を起点として探究を設計している。これにより、生徒は「自分は何を大切にしたいのか」「どんなときに前向きになれるのか」といった内面的な問いを通じて、進路や将来を主体的に考えるようになる。進路選択を「成績で決めるもの」→「自分で意味づけして選ぶもの」へと転換する役割を果たしている。

<教職員の抱える課題に対する役割>

本サービスでは、問いの立て方/振り返りの視点/探究を次につなげる整理までを含めて設計している、探究学習が一過性で終わらない。

結果として、

- ・調べ学習から「考える学び」への転換
 - ・自己理解と進路探究の接続
 - ・学習全体の質的向上
- を実現し、「探究的な学びの高度化」に寄与している。

そして、大学生・社会人といった外部人材が関わることで、生徒は「大人も迷い、考えながら進路を選んできた」というリアルな経験に触れることで、自分の本音を大切にしながら、進路選択・キャリア形成をする一助になる。

サービスの活用風景



「自分はどっちを選ぶ？」ワークシート

年 組 名 前: _____

質問を読んで、A・Bを□の中に書こう。選んだ理由も書こう。

Q1: 好きなものを食べるタイミングは、どっち?
A「最後に取っておく」 B「先に食べる」

理由: _____

Q2: どちらかを手に入れられるなら、どっち?
A「失敗を消せる消しゴム」 B「失敗を笑い話にできる能力」

理由: _____

Q3: どちらか1人と一生の仲(友達)でいなければならないなら、どっち?
A「喧嘩ばかりする友達」 B「言い訳ばかりする友達」

理由: _____

Q4: 恋人にするなら、どっち?
A「自分好みの外見で、性格は悪い」
B「自分好みでない外見で、性格が良い」

理由: _____

Q5: 働くならどっち?
A「給料は安いけどやりがいのある仕事」
B「給料は高いけど全くやりがいのある仕事」

理由: _____

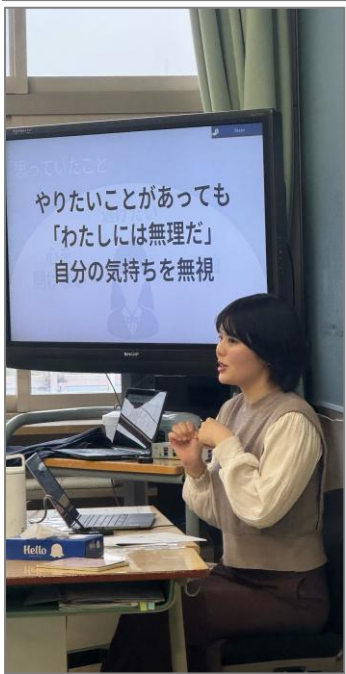
Q6: テスト勉強をするとき、どっち?
A「目標決めて毎日コツコツ」 B「直前に一気に勉強する」

理由: _____

Q7: 中学校生活で大切にしたいことは、どっち?
A「高校進学や将来のために努力する」 B「今しかできないことを楽しむ」

理由: _____

授業までの流れ



Youも高校へ? Why did you come to High School?

ゲストの名前③ _____ ブース/教室: _____

MEMO

大切だと思ったこと

Q: ゲストの話を聞いてみて、自分の悩みや迷いが解消された点は、どんなところですか?

Q: 印象に残ったことベスト3を聞かせて!

🏆 2 3

Q: 明日からのYouが活かしたいことはあった? 発言してみよう!

今日の感想

2025/10/31 講話プログラムワークシート Presented by

<講話プログラム>

1. 学校におけるキャリア教育の目的の明確化
2. 登壇者募集～選定
3. 登壇者情報スライドの作成(生徒が登壇者を選択する際に使用)
4. 生徒への事前アンケートの作成(高校への不安事項、誰の話を聞きたいかなど)
5. 事前授業説明スライド【講話プログラムについて】作成(生徒/学内共有 2種作成)
6. 講話プログラム当日に使用するワークシート作成
7. 登壇者当日投影スライドの作成サポート
8. 事前アンケート集計(各ターンの生徒振り分け)～学校様への共有
9. 各クラスごとの生徒振り分け一覧表の作成
10. 登壇者投影スライド回収～共有
11. 登壇者発表リハーサル
12. 当日掲示物の作成
13. 事後アンケート(ゲストへのメッセージ)まとめ

<ワークショッププログラム>

1. 学校におけるキャリア教育の目的の明確化
2. ワークショップ内容の協議
3. ワークシート叩き台の作成
4. 授業指導案の作成・共有
5. 投影資料の作成・共有
6. 振り返りミーティング
7. 次回のワークショップ内容についての協議

本事業においてサービスを導入した学校設置者数・学校等教育機関数

学校設置者数	1	学校等教育機関数	3校
--------	---	----------	----

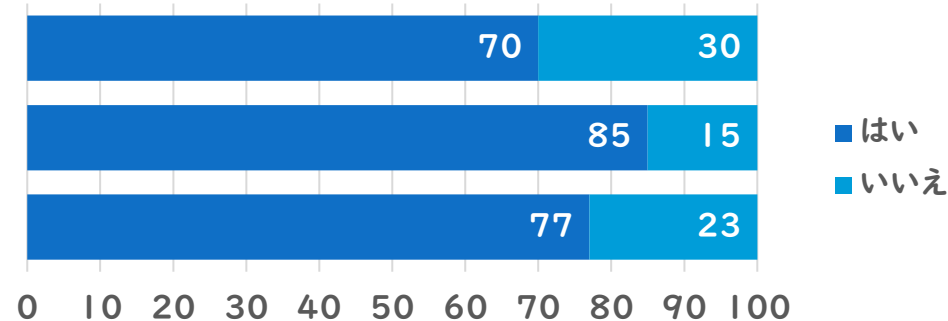
	学校設置者名	学校等教育機関名	所在地	学校種	学年	実施内容
1	札幌市教育委員会	札幌市立啓明中学校	北海道	中学校	3	自己探究型キャリア教育プログラム-REAL-(ワークショップ) 自己探究型キャリア教育プログラム-REAL-(~社会人の話~) 自己探究型キャリア教育プログラム-REAL-(~大学生の話~)
2	札幌市教育委員会	札幌市立新琴似中学校	北海道	中学校	3	自己探究型キャリア教育プログラム-REAL-(ワークショップ) 自己探究型キャリア教育プログラム-REAL-(~社会人の話~) 自己探究型キャリア教育プログラム-REAL-(~大学生の話~)
3	札幌市教育委員会	札幌市立東月寒中学校	北海道	中学校	1	自己探究型キャリア教育プログラム-REAL-(ワークショップ) 自己探究型キャリア教育プログラム-REAL-(~社会人の話~) 自己探究型キャリア教育プログラム-REAL-(~大学生の話~)

■【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定量的効果検証

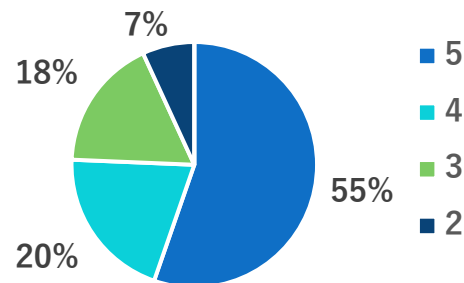
>授業後アンケートにおいて(N=452)

- ・「自分の考えを言葉にして伝えることができた」と感じた生徒:70%
- ・「進路について前向きに考えられるようになった」と回答した生徒:85%
- ・「自分の進路について、理由を考えられるようになった」と回答した生徒:77%



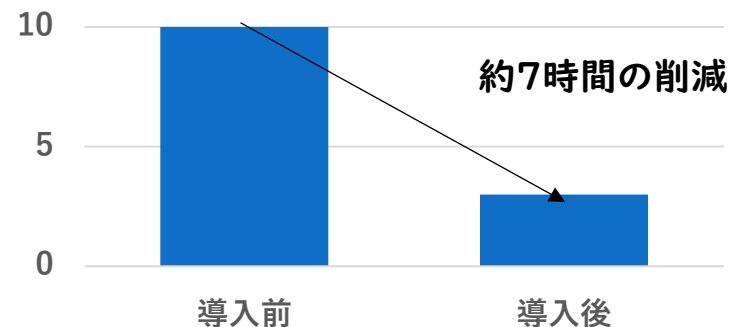
・探究学習に対する満足度(5段階評価):平均4.2点

これらの結果から、本サービスが生徒の主体性や探究への意欲向上に寄与していることが示唆される。



>探究授業の準備時間

- ・従来:約7時間~10時間 → 本サービス活用後:約3時間(打ち合わせ時間含み)
- ・教材作成・進行設計にかかる工数の削減:各学校 担当者
- ・「探究授業の見通しが立てやすくなった」と回答:各学校 担当者
- ※授業(プログラム実施後の担当者との振り返りミーティング時のコメント)



■【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定性的効果検証

>児童・生徒における効果 (授業後、生徒・教職員への聞き取りの結果、プログラム効果について下記のように考察します。)

本サービスの活用により、生徒は自身の価値観や関心を起点として進路を考える姿勢が育まれた。従来は「成績」「偏差値」「周囲の評価」を中心に進路を捉える傾向が見られたが、本プログラムを通じて、「なぜその進路を選びたいのか」「自分は何を大切に将来を考えたいのか」といった問いに対し、自分の言葉で理由を説明できる生徒が増加した。

特に、自己理解ワークと対話を組み合わせた学習設計により、生徒は自分の考えを一度整理し、他者と共有する経験を重ねることで、思考を深めていく姿が多く見られた。進路を「正解探し」ではなく、「自分なりの意味づけを行うプロセス」として捉える変化が生じている。

また、他者との対話を通じて多様な考え方や価値観に触れることで、

- ・自分と異なる意見を否定せず受け止める姿勢
- ・自分の考えを相手に伝え、相手の意見を聴こうとする態度
- ・探究をさらに深めるための問いを立て直す力

が育まれ、探究学習が表層的な調べ学習に留まらず、内省と対話を伴う質的に深い学びへと発展した。

>教職員における効果 (プログラムまでの事前事後の打ち合わせ内で、教職員からの成果・効果に対しての意見を抜粋したもの)

外部サービスを活用することで、探究学習における問いの設計、ワーク構成、進行・ファシリテーションの負担が軽減された。

特に、探究の流れや問いの段階があらかじめ整理されていることで、教員は授業準備にかかる時間を削減しつつ、生徒一人ひとりの様子や思考の変化に目を向ける余裕を確保できた。

その結果、教員は

- ・授業全体の目的やゴールの共有
- ・生徒の発言や変化を捉えた声かけ
- ・探究の深まりを支える関わり

に注力でき、学習の質向上と業務効率化の両立が実現した。

■ 探究・校務改革支援サービスを活用した児童・生徒・教職員等のコメント感想等

<生徒からのコメント・感想>

- 「何度も失敗しても人生はなんとかなる」という言葉に勇気をもらいました。この言葉を信じてどんなことにも全力で挑戦していこうと思います!
- 自分がワクワクするものを見つけることが、人生をより良いものにすることがよく分かりました!
- 自分の人生は自分でしか決められないというのが心に残りました。
- 今後に役立つ話ばかりで勉強になりました。
- 将来何になりたいかじゃなくてどんなことをしたいかが大事だとわかった。
- 私の取り柄は雑務や人がやりたがらないものを率先してできることで、自分を否定してきましたが、授業を受けて、それしか取り柄がないのならそれを極めて私だけのものにすればいい。と結論づけました。
- になりたいものになるためには道は一つだけじゃないということがわかった。
- 初めて自分の将来について前向きに考えられました。3年生からだったのが少し残念で、もう進路を決めなきゃ!って焦り始めていたので1、2年生から受けられていたらもっと前向きに余裕をもって自分の将来について考えられたのかなとも思います!

<教職員からのコメント・感想>

- 生徒たちは実際に様々なキャリアを持つ大人の方々の話を興味を持って話を聞き、将来について考えたり、漠然とした不安を少し解消できたのではないかと思います。
- 生徒の反応、姿も良かったが社会人の方々の真剣さが伝わったのだと思います!職場体験がなくても、こんなに将来について考えさせることができるのだと目から鱗でした。
- 自分が中学生の時にこういうのをやってもらったら、人生変わったかもと感じさせられるようなプログラムでした。
- 生徒の「知りたい」を組み上げてプログラムを組み立てていただけたことや、何と言ってもいろいろな生き方、職業に出会わせてもらえたことが良かった。
- 子ども達にとって遠い未来ではなく高校進学その先(大学や就職など)を考えられるような内容で、実際に大学生や社会人と話すことができるのが、より子どもも想像しやすく良かったと思います。
- 講話&プログラム&熱量が伝わってきて我々教師も良い刺激となっています。
- 学校だけでは限界がある。生徒の視野を広げるためにはとても必要な支援

本サービスの導入にあたり、生徒の自己開示への抵抗感や、探究学習のゴールが共有しづらい点、授業時間の制約といった課題が見られた。これに対し、段階的な問い設計や事前打合せによる目的共有、ワークシートの簡略化等の改善を行い、生徒の主体的参加と柔軟な運用を実現した。

直面した課題

(1) 生徒が最初は自己開示に消極的であった

本サービスの導入初期において、生徒の中には自分の考えや価値観を言葉にすることに不安を感じ、発言や共有に消極的な姿が見られた。特に、自己理解を伴う探究学習に慣れていない生徒ほど、「正解が分からない」「評価されるのではないか」といった心理的ハードルを抱えやすい傾向があった。

(2) 探究学習のゴールがイメージしにくい教員もいた

探究学習の重要性は共有されているものの、「最終的に生徒にどのような変化を期待するのか」「どこまで深めればよいのか」といったゴール像が明確でない場合、授業設計や評価の観点が定まりにくいという課題が見られた。

(3) 授業時間の制約により、十分な振り返り時間を確保しづらかった

限られた授業時間の中で、ワーク・講話・対話・振り返りをすべて行うことは難しく、特に生徒の思考を整理し、次の探究につなげる振り返りの時間が不足しがちであった。

解決するための改善策

(1) 段階的な問い設計により、無理のない自己開示を促進

いきなり自己の価値観を深く問うのではなく、「身近な出来事」「最近気になったこと」など答えやすい問いから段階的に設計することで、生徒が安心して考えを表現できる環境を整えた。これにより、徐々に自己開示への抵抗感が軽減され、対話への参加度が向上した。

(2) 事前打合せによる目的・ゴールの明確化と教員との共通理解形成

事前打合せにおいて、探究学習の位置づけや本サービスの狙い、生徒に期待する変化を共有し、教員と目的・ゴールの共通認識を形成した。これにより、授業中の関わり方や振り返りの視点が揃い、学習効果を高める運用が可能となった。

(3) ワークシート・振り返りフォーマットの簡略化と事後共有の工夫

授業内で扱う内容を精選し、ワークシートや振り返りフォーマットを簡潔にすることで、限られた時間でも要点を整理できる構成とした。また、授業後に振り返り内容を共有・活用できる仕組みを整えることで、学びを次の探究につなげやすくした。

■会社概要

社名	ソルーナプランニング株式会社
代表	繁富 奈津子
設立年月	平成22年9月13日
本社	札幌市中央区南17条西7丁目4番10-202号
資本金等	3,000,000円
売上高等	非公開
従業員数	1名
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 起業支援事業 2. 経営コンサルティング事業 3. ビジネスマッチング事業 4. イベントの企画、運営事業及びこれらの請負事業 5. 各種商品の企画、制作、プロデュース、販売事業 6. セミナー、ワークショップ、研修会その他教育関連事業 7. 広告宣伝事業 8. コワーキングスペースの運営事業 9. モニター、アンケートの募集、収集、分析事業 10. 情報発信事業 11. 通信販売、委託販売事業

■お問い合わせ窓口

担当：馬場 航平

電話：090-6873-4529

Mail:seminar@north-woman.or.jp